

富津市立保育所自己評価書

(飯野保育所)

- A → 大変よい
- B → よい
- C → 一部検討を要す
- D → 改善を要す

評価期間 令和3年4月～令和4年2月

令和4年3月

項目	内 容	評価 A.B.C.D	評価の根拠・改善策等
生命の保持・健康	<p>家庭との連携を密にし、嘱託医との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。</p>	A	<p>家庭との連携を密にし、一人ひとりの健康状態は担任だけでなく全職員が把握し対応できるように持病一覧を作成し共有している。また、感染症対策等、十分に配慮し安全な環境作りに取り組んでいる。嘱託医について、子どもの健康や発達に関して指導を受け、情報交換をすることができた。事故防止マニュアルに沿って点検や不審者対応訓練に取り組み、事故防止に努めている。</p>
	<p>愛情豊かな受容の下で、安定感を持って生活し、食事や午睡、遊びと休息など、快適な生活のリズムが形成される。</p>	A	<p>信頼できる大人(保育士)との関係を構築し、安心感の持てる環境の中で保育士に甘えたり、助けを求めたりしながら愛着の土台を築いていった。自我を育てることを大切にしながら、自分でやりたいと思う意欲や自分にはできると思う自信につなげている。また、一人ひとりの家庭での様子を聞きながら、その子に合った生活リズムに配慮したかわりができた。</p>
	<p>様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。</p>	A	<p>コロナ禍でも、豊かな自然の中で、戸外遊びの充実を図り、子ども達が主体性を発揮しながら様々な遊びを展開していく時間や場を保証し、子ども達がのびのびと遊びを楽しむことができています。</p>
人間関係	<p>保育士等に思いや行動を受け止めてもらい、応答的な関わりの中で、安定感をもって過ごす。</p>	A	<p>一人ひとりの行動への応援や共感だけでなく、目に見えない内面に目を向けることを大切にしている。本音の気持ちを見極めながら、寄り添っていくことで分かってもらえる安心感に包まれる体験が情緒の安定を図ることにつながった。</p>
	<p>生活や遊びの中で、身近な人への関心をもち、真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。</p>	A	<p>信頼できる大人との関係をもとに、小さい子が大きい子に憧れたり、大きい子が小さい子の面倒を見たりしながら、人とのつながりが深まることで、子どもたちが</p>

		主体的に生き生きと遊ぶことにつながった。更に地域の人とつながりたい気持ちも育んでいる。
	自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く。	A 自我の育ちを大切にしながら、自分の思いを伝えることと相手の気持ちを受け入れることができる様に保育士がその子に合った支援を行い、自立心や共同性を育てることにつなげている。
	生活や遊びの中で決まりの大切さに気付き、守ろうとする。	A 友だちと一緒に生活する中で、けんかも含め体験しながら、どうしたら上手くやっていけるだろうか等を学ぶ場を大切にしている。保育士が一方的に押し付けるルールではなく、生活や遊びの中で必要なルールを自分たちで考えていくことで、守ろうとする気持ちを高め、教えあったり、助け合ったりする関係を育んでいる。
環境	安全で活動しやすい環境の下で探索活動を通して五感の働きを豊かにする。	A 戸外遊びでは全体を見渡す見守り保育士を立てることで安全面への配慮を強化した。見守り保育士を立てたことは自分のクラスだけでなくどのクラスの子どもの様子にも目を向け、みんなで見守る体制につながった。 砂や水や泥に存分に触れる体験を大切にし、自然の中で五感を使って、好奇心を高めながら自分の力を試す遊びが広がった。
	生活や遊びの経験を重ねながら、形、色、大きさ、量、音などの物の性質に気付いていく。	A 遊びを通して、つなげたり、重ねたり、薄めたり、削ったりすることで、色や形、量等に気付き、興味を深めていった。遊びの中で興味を持ったことは、すぐに図鑑等を活用しながら自分たちで調べ、物の性質や特徴を知り、思考力を高めていった。
	自然に触れて遊ぶ中で、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。	A 散歩や戸外遊びに出る中で、太陽の恵みや風の力を感じたり、動植物に触れたりしながら、美しさや不思議

		さ、面白さ、怖さを友だちや保育士に伝えながら探求心や感性を高めている。
	日常生活の中で、数量や図形、標識や文字などに関心をもつ。	A お店屋さんごっこなど、遊びのブームを巻き起こす中で、必要な数量や文字に興味を示し、知りたい気持ちを高めながら学ぶことができた。小さい子は絵本やパズル遊びを通して、文字や図形に興味、関心を持つことができた。また、食事をしながら、「いっぱい」「少し」など、自分の思いを伝えながら量の概念を自然と覚えていった。
言葉	保育士等の応答的な関わりや話しかけにより、自分の要求や気持ちを伝えようとする。	A 泣いて表現することや言葉にならない気持ちも保育士が大事に受け止めていくことで、心を通い合わせ、安心することができた。そのことを土台に次第に言葉での表現が豊かになってきている。表現の仕方には個人差があるので、その子に合った配慮も丁寧に行った。
	絵本や紙芝居を楽しみ、簡単な言葉を繰り返したり、模倣したりして言葉の感覚を豊かにする。	A 絵本や紙芝居に十分に触れる時間を大切にされた。全体に読み聞かせるだけでなく、一対一で触れ合いながらの読み聞かせも大切にされたことで保育士との温かい時間を共有しながら、絵本の世界を楽しむことができた。お話の中の言葉を自然に発したり、主人公になりきったりして、ごっこ遊びに発展させることもできた。
	保育士等や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみをもって聞いたり、話したりする。	A 保育士や友だちの言葉にはならない気持ちにも気づき寄り添おうとする力が子どもにはあり、驚かされることがある。そういったことを逃さずに認めることや代弁することで言葉での表現につながっている。言葉で通じ合う喜びを感じることで、人の話に興味や関心をもって、よく聞くことができるようになってきている。
	生活の中で必要な言葉の意味や使い方を知る。	A 生活や遊びの中でのやり取りをする際、「やりたかったね」「痛かったね」など気持ちと言葉がつながるように、

			保育士が代弁をするようにしたことで、子どもたちから、自分の気持ちに沿った言葉が多く聞かれるようになった。また、遊びや生活の中で必要な言葉を自分で考えて、人に伝えることができるようになってきている。
表現	水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れ五感を使い楽しむ。	A	1年を通して、様々な素材に触れながら、五感を使い楽しむことができる環境を保証している。特に水・砂・泥を使った遊びをダイナミックに展開することができた。
	音楽に合わせて体を動かすことの楽しさを味わう。	B	わらべうた、体操、遊戯など音や曲に合わせて、一人ひとりが自ら動いたり表現したりすることを楽しむことができた。また、曲を聞いて自ら振り付けを考えて楽しく踊る姿も見られた。 リズムについてはコロナ禍で、密を避けるために少人数制で行い、例年より時間をかけて取り組むことができなかった。
	生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。	A	豊かな自然の中で、雲の形や虫の鳴き声、雨・風・雪・氷・霜柱等の音や感触、美しさ、不思議さを感じていた。 また、楽器を使って演奏の仕方を覚えるだけでなく、友だちと音を合わせることの心地よさやダイナミックさを感じることもできた。
	生活の中で、保育士等や友達と感動を共有することや伝え合う楽しさを味わう。	A	できた時の喜びを保育士や友だちに伝え、認められることで嬉しくて何度も繰り返し行いながら、達成感や自信を持つことにつながった。 また、友だちができたことを共に喜び感動する場面もあり、仲間関係が深まった。
保護者への支援	一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	A	一人ひとりの保護者と、送迎時や連絡ノート、個別面談等で情報交換を密に行ったことで、信頼関係を深めることができた。また、子育ての悩みに共感し、一緒

			に考えながら親子の歩みを応援し、子育ての自信につながるように努めた。
	家庭状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	A	健康面や家庭の状況等、子どもの成長にとって必要な内容が記載されている。
	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している。	A	保護者対応は笑顔で、積極的に子どもの様子を伝えながら、話しやすい雰囲気を心がけている。 相談や意見に対しては、相手の立場に立って共感的に聞き対応している。
行事	行事のねらいを計画や実施に十分生かしている。	A	子どもの今の興味や関心を把握し、子どものやりたいことが実現するために計画を立て、実行することで、達成感を味わわせることができた。 そのことで遊びが発展し、ブームを巻き起こせるようになった。
	保護者の願いや意見を取り入れている。	C	保護者に、子どもの育ちに大事なことや悩んでいることについて、お便り等で伝えながら、共通理解のもと保育を進めていった。 行事についてはコロナ感染防止から、保護者の参加人数制限や中止しせざる得ない状況となり、保護者の希望に添えないことがあった。
	計画・実施・評価・改善の体制をとっている	A	子どもが興味を持って取り組んでいることを計画に取り入れ、保育士はその遊びや活動が発展し、達成感が味わえるように導いている。遊びや活動ごとに振り返りをし、反省点の改善やより良いものになるための改革を行っている。
その他	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っている。	A	個人情報は慎重に適正に取り扱うことができている。
	園内研修を実施している。	A	「子どもの本音の見つけ方・支え方研修」「子どもの本物の主体を導くには」「信頼関係の深まった保育集団

		<p>になるために」「乱暴な子について」「愛着の土台を築くには」「泣きの意味」等、園内研修の充実を図ることができた。</p>
<p>掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している。</p>	<p>B</p>	<p>子どもたちが今日どんな感動をしたかなど、その時その時の子どもの様子を逃さず、掲示(ドキュメンテーション)や連絡ノート、お便り等で伝えることができた。注意事項やお願いの掲示については保護者の方が分かりやすいように掲示の仕方を工夫していく。</p>